

畑作・野菜・花き生産情報 第1号（要約版）

令和4年4月20日
青森県「攻めの農林水産業」推進本部

- ◎ この時期の農作物は、降霜等の影響を受けやすいので、週間天気予報などに十分注意し、適正な栽培管理に努めよう！
- ◎ 小麦は、適期の追肥と病害虫防除で収量・品質を確保しよう！
- ◎ にんにくの生育は、平年並か平年より早まっています。適期追肥とさび病、春腐病等の防除を徹底しよう！
- ◎ 施設内の温度変化が激しい時期です。適正な栽培管理により高品質な花きの生産に努めよう！

○小麦

- 1 幼穂形成期は、ネバリゴシで平年に比べ2日から7日、キタカミコムギで平年に比べ2日から13日遅れている。
草丈は、十和田市のネバリゴシ、つがる市のキタカミコムギを除き平年並から大幅に長くなっている。莖数は、つがる市のネバリゴシ、キタカミコムギを除き平年並から大幅に多くなっている。
- 2 2回目の追肥は、止葉抽出期から出穂期の間には生育量をみて適切に行う。
- 3 うどんこ病と赤かび病の適期防除に努める。

○にんにく

- 1 生育は、平年並か平年より早まっている。
- 2 追肥は、りん片分化期に到達したら適期に行う。
- 3 さび病、春腐病の防除を徹底するとともに、春腐病の被害株は抜き取って処分する。

○ながいも

- 1 3月19日の降雪による作業の中断や、他の作物のは種作業との競合により、春掘作業は例年より遅れている。芽が動くなどの品質低下を防ぐため、4月末までに作業を終える。
- 2 トレンチャー耕は、穴落ちなどを防ぐため適正速度を守る。
- 3 栽培法に合わせて種いもを準備するとともに、早植栽培では4月下旬から5月中旬に植付けする。
- 4 普通栽培では、初期生育を促進するために植付30日前に種いものガンクを切除し、風通しの良い無加温の倉庫などで保管する。

○トンネルだいこん、にんじん

- 1 生育は順調である。
- 2 好天時はポリトンネル内を換気し、適正な温度管理に努める。

○トマト、メロン

- 1 苗の生育は順調である。
- 2 定植に向けて徐々に気温を下げて苗を順化する。ただし、降霜が予想される時や低

温時には、二重被覆等で保温に努める。

- 3 地温の確保のため、早めにマルチングを行うなど、ほ場準備を計画的に進める。

○夏秋ギク

- 1 8月上旬出荷の作型は、例年並の4月中旬から定植作業が始まっている。苗の生育は順調であり、病害虫の発生は見られていない。
- 2 親株は、最高温度25℃を目安に換気する。移植栽培の場合は、挿し芽を定植2週間前に行い、定植1週間前から徐々に定植時の温度に慣らしていく。
- 3 8月上旬出荷の作型では、定植を5月上旬までに行う。

○トルコギキョウ

- 1 春定植における苗の生育は、一部ばらつきがあるものの概ね順調であり、病害虫の発生は見られない。越冬栽培の作型で、一部に土壤病害の発生が見られる。定植作業は3月下旬から始まり、順調に進んでいる。
- 2 は種直後は20～25℃で管理し、発芽が揃った後は徐々に温度を下げ、15～20℃で管理する。
- 3 8月上旬出荷の作型では、4月下旬を定植の目安とし、老化苗は生育が劣るので、展開葉4枚までの苗を定植する。

※アップルネット (<http://www.applenet.jp/>) に本文を掲載しています。

◎『日本一健康な土づくり運動』展開中 ～元気な作物は健康な土が育みます～

土壤診断に基づいた適正施肥や土壤改良は、施肥コストの低減にもつながります。緑肥を活用し、作物の生育に好適な土壤環境づくりを心がけましょう！
効率よく堆肥を使い、堆肥の肥料成分を考慮した化学肥料の低減に努めましょう！

◎農薬は適正に使用しましょう。

- 1 使用する際は、必ず最新の登録内容を確認しましょう。
 - 農林水産省「農薬登録情報提供システム」
<https://pesticide.maff.go.jp/>
 - (独)農林水産消費安全技術センター「農薬登録情報・速報」
<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/index/index.html>
- 2 飛散防止に努め、住宅地等の近隣で使用する際は、事前に周囲に知らせましょう。
- 3 クロルピクリン剤など土壤くん煙剤を使用する際は、必ず厚さ0.03mm以上又は難透過性の被覆資材で被覆しましょう。
- 4 市販の除草剤には、農作物等の栽培管理に使用できない「非農耕地専用除草剤」があるので、注意しましょう。
- 5 農薬は使い切りを徹底し、河川等には絶対に捨ててはいけません。

◎食中毒を防ぐため、生産段階から「野菜の衛生管理」に努めましょう。

- 1 栽培に使用する水の衛生管理や水質の確保に努めましょう。
- 2 家畜ふん堆肥は、水分調整や定期的な切り返しを行い、十分発酵させましょう。家畜ふん中の菌の死滅には、55℃以上の温度が3日以上続いている状態が必要です。堆肥の製造工程では、この温度条件を確認しましょう。
- 3 家畜ふん堆肥を野菜栽培に使用する際は、製造工程や熟成度を確認しましょう。確認できない場合には、堆肥施用から収穫までの期間を、収穫部位が土壤から離れた野菜は2か月、土壤に近い野菜は4か月空けましょう。
- 4 農機具や収穫容器等は清潔な状態を保ち、汚水の流入や野生動物の侵入防止等、栽

培環境の整備にも努めましょう。

※ 野菜の衛生管理指針、家畜ふん堆肥の生産・利用の注意点はこちら

→https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/sanzen/yasai_eiseikanri.html



◎備えあれば、憂いなし！ 農業保険を活用しましょう！

自然災害や価格下落など、農業経営を取り巻く様々なリスクに備えるため、自分の経営にあった農業保険（国などが掛金の一部を補助する公的保険制度）を活用しましょう。

1 自然災害リスクをカバーしたい方

農業共済（農作物共済・畑作物共済・園芸施設共済）は、全ての農業者を対象に、米、麦、畑作物、農業用ハウスなどが自然災害によって受ける損失を補償します。

※ナラシ対策や野菜価格安定制度等を利用することもできます。

2 様々なリスクをカバーしたい方

収入保険は、青色申告を行っている農業者を対象に、自然災害や価格低下だけではなく、農業者の経営努力では避けられない収入減少を広く補償します。

＜野菜価格安定制度を利用している野菜生産者の皆様へ＞

現在、当分の間の特例として、初めて収入保険に加入される方は、収入保険と野菜価格安定制度を同時利用（2年間）することができます。

※ 詳しくは、お近くの農業共済組合までお問い合わせください。

◎春の農作業安全運動を展開中です（4月1日～5月31日）

例年、4～5月は、農作業事故が多発する時期となっています。

体調や周囲の状況を確認し、安全な農作業に努めましょう。

- 1 慣れた作業でも油断せず、注意して行いましょう。
- 2 必ず、作業の合間に十分な休憩を取りましょう。
- 3 自分を過信しすぎず、無理のない作業を行いましょう。
- 4 一人での作業は避け、やむを得ず一人で作業を行う場合は、家族に作業場所を伝え、携帯電話を持って出かけましょう。
- 5 家族や周りの人など、地域全体で注意を呼びかけましょう。
- 6 万一の事故に備えて、労災保険や農機具共済などの保険に加入しましょう。



報道機関用提供資料	
担当課 担当者	(畑作) 農産園芸課稲作・畑作振興グループ 総括主幹 成田真樹 (野菜・花き) 農産園芸課野菜・花き振興グループ 総括主幹 木下均
電話番号	(畑作) 直通 017-734-9480、内線 5073 (野菜・花き) 直通 017-734-9481、内線 5076
報道監	農林水産部 次長(農商工連携推進監) 成田澄人 内線 4967

県民の皆さまへのお願い
新型コロナウイルス感染拡大防止



<https://www.pref.aomori.lg.jp/koho/covid19kakudaiboushi.html>